

大雨に伴う美祢線・山陰線の被災状況と今後の見通しについて

2023 年 6 月 30 日からの大雨により被災された皆様方に心よりお見舞いを申し上げます。

美祢線(厚狭～長門市駅間)ならびに山陰線(長門市～小串駅間)では、このたびの大雨により鉄道施設に大規模な被災が確認され、被災状況や被災原因等の調査を進めてまいりました。現時点で把握した被災状況等と、これを踏まえた今後の見通しについて以下のとおりお知らせいたします。

運転を見合わせている区間については、代行バスを運転しております。ご利用のお客様には引き続き、代行バスのご利用をお願いいたします。

○美祢線について

1. 被災状況について

発生区間：湯ノ峠(山陽小野田市)～長門湯本(長門市)駅間の約 3.7 km の区間

箇所数：80 箇所

2. 被災原因等について

第 6 厚狭川橋りょう流失をはじめ、盛土(路盤)やバラスト流失の多くが二級河川厚狭川の水位上昇や氾濫によって生じたものと想定しています。

なお、厚狭川に架かる他の 6 橋りょうも橋桁に至る水位上昇を現地調査により確認しました。

○山陰線について

1. 被災状況について

発生区間：長門市(長門市)～小串(下関市)駅間の約 5.1 km の区間

箇所数：69 箇所

2. 被災原因等について

大雨による土砂災害であると想定しています。

なお、粟野川橋りょうの橋脚傾斜は引き続き専門技術者による調査分析を実施しております。

○今後の見通しについて

美祢線は、2010 年 7 月に引続いての厚狭川に起因する大規模な被災であることから、当該橋りょうだけでなく、河川管理者において、厚狭川全体の河川計画を検討される必要があると考えております。

また、被災前の美祢線利用促進協議会※では、弊社から地域交通における美祢線の役割についての議論を沿線自治体の皆様に要請してきたところです。

これらを踏まえ、厚狭川全体の河川改修など沿線地域の防災強度向上の検討に対応させていただくとともに、今後の進め方について関係自治体の皆様に相談させていただきたいと考えております。

山陰線は、粟野川橋りょうの被災メカニズムの調査や構造物の詳細調査を引き続き進めてまいります。調査結果についてはまとめ次第ご報告いたします。

※2010 年 7 月の豪雨災害を契機として同年 9 月に発足以降、美祢線の利用促進事業に関する取組を実施

【お問合せ先】

中国統括本部 経営企画部(広報)

082-261-1763

大雨に伴う山陰線の被災状況と今後の見通しについて

2023 年 6 月 30 日からの大雨により鉄道施設に大規模な被災が確認された山陰線（長門市～小串駅間）では、栗野川橋りょう（長門栗野～阿川駅間）の橋脚傾斜を中心に被災原因等の調査を進めてまいりました。この度、調査結果がまとまりましたことから、その内容と今後の見通しについて以下のとおりお知らせいたします。

なお、運転を見合わせている区間については、代行バスを運転しております。ご利用のお客様には引き続き、代行バスのご利用をお願いいたします。

1. 栗野川橋りょうに関する調査結果について

- ・ 橋脚傾斜の原因は、大雨に伴う水位上昇と、それに伴う激しい水流により基礎部の侵食を防止する矢板が損傷したことで、支持地盤の流失から橋脚の沈下・傾斜に至ったものと推定されます。
- ・ 傾斜した橋脚については、基礎部の機能が大きく損なわれており、使用に耐えないと判断しております。
- ・ その他の橋脚並びに橋桁についても、一部の損傷や部分的な変状が認められています。

2. 今後の見通しについて

傾斜した橋脚については改築が必要と判断しており、河川管理者である山口県と仮に復旧する際の河川内工事について、相談をしてまいりました。その結果、工事の通年施行を前提に工期・工事費の縮小が見込めることとなりましたので、今後復旧に向けた具体的な検討を開始いたします。

現時点、栗野川橋りょうの復旧には少なくとも着工後 1 年半程度の工期が必要と見込んでおります。

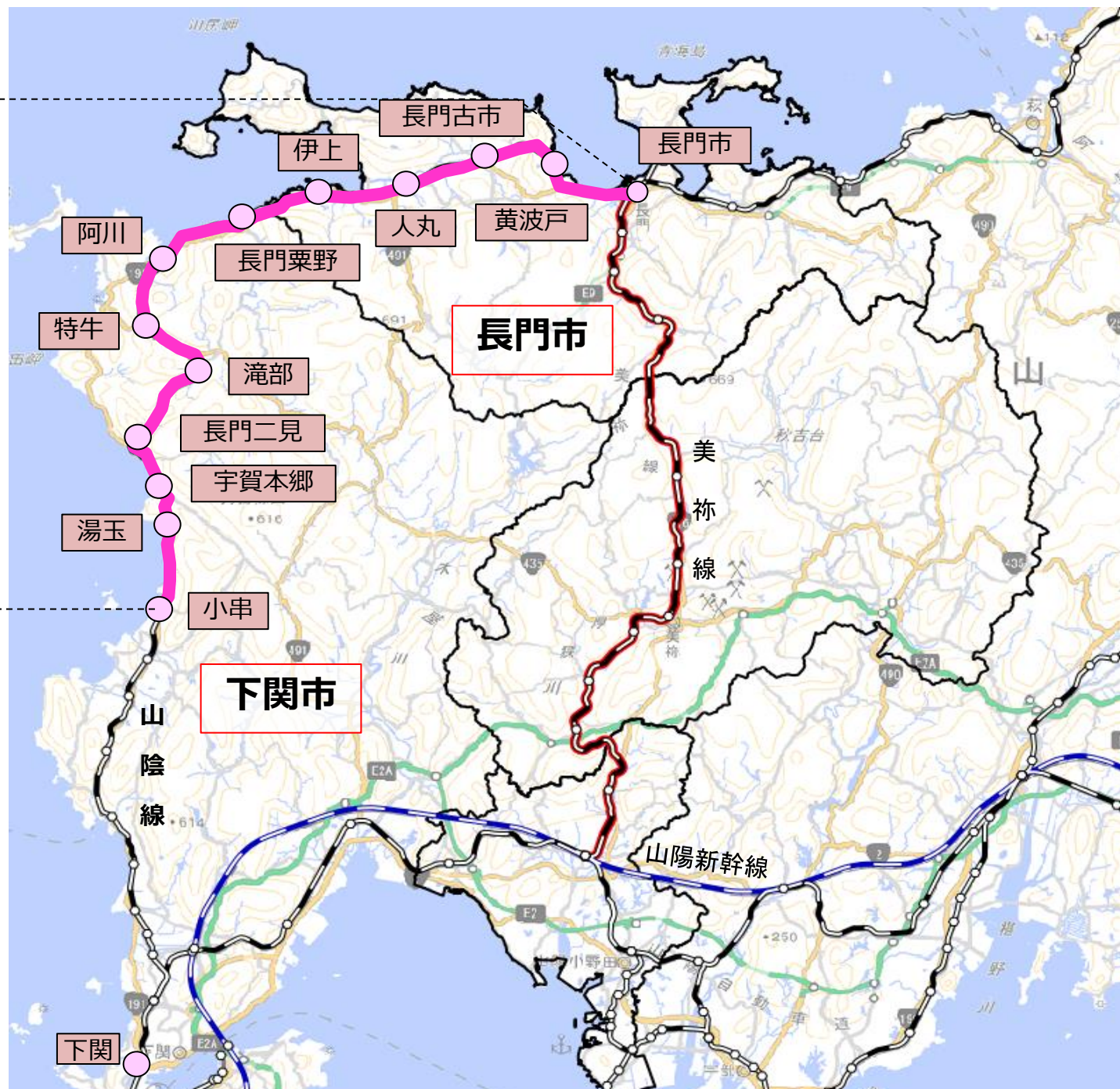
また、橋りょう以外の区間での部分的な運転再開に向けた検討も合わせて進めます。

一方で、山陰線のご利用状況は非常に少ない状況にありますので、復旧に向けた検討と合わせて、鉄道としての持続可能性を確保するため、沿線の自治体の方々と相談をさせていただきたいと考えております。

山陰線（長門市・小串）の概況

山陰線
不通区間
長門市～小串
50.6km

被災区間
長門市～小串
50.6km
(69箇所)



山陰線バス代行
11往復(7/4～)
※鉄道と同本数
→1便増発(8/21～)

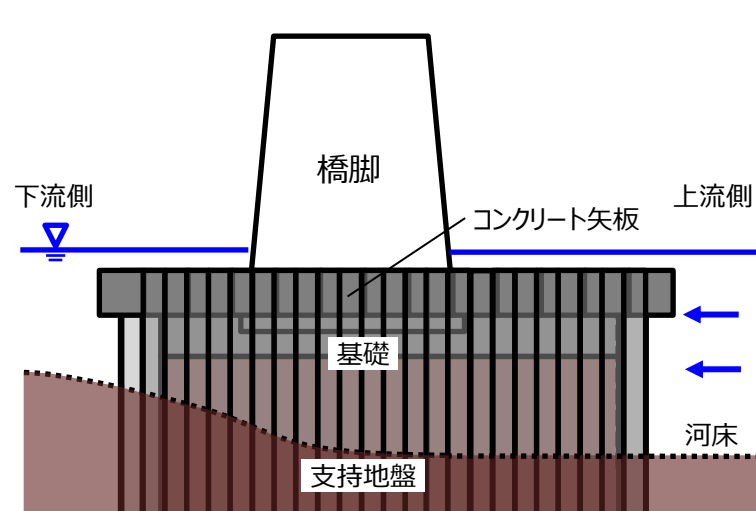
山陰線 栗野川橋りょうの被災状況



長門栗野・阿川間栗野川橋りょう橋脚傾斜



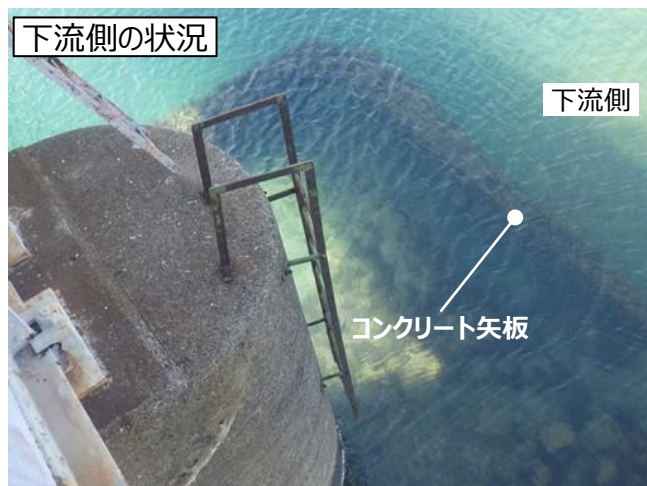
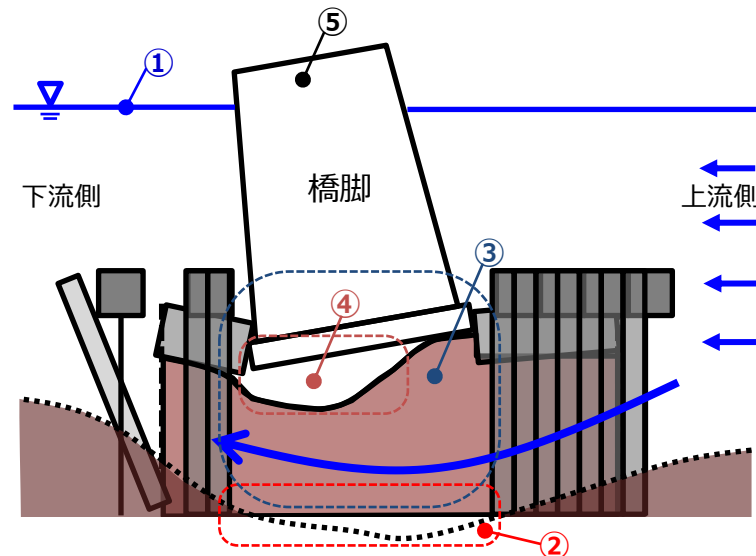
山陰線 栗野川橋りょうの被災メカニズム



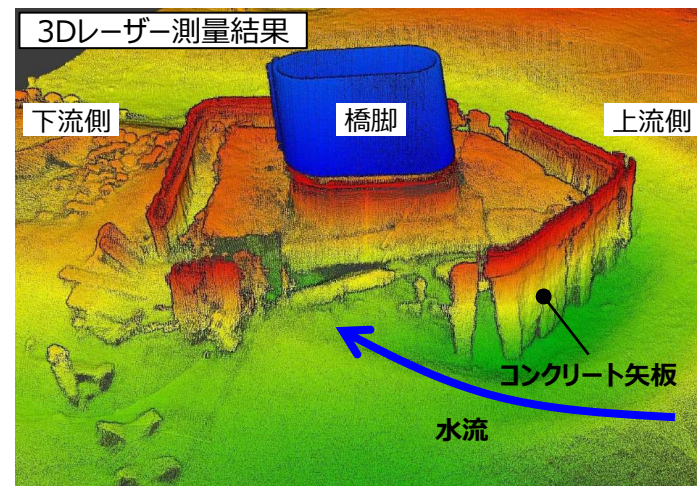
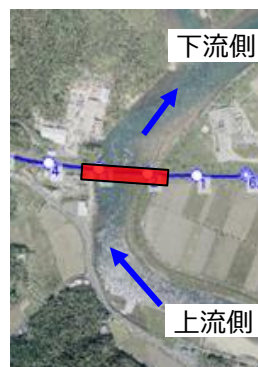
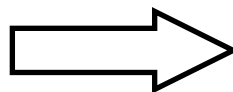
【被災メカニズム】

過去最大の時間雨量を記録

- ① 急激な河川水位の上昇
- ② 激しい水流による河床の侵食
- ③ コンクリート矢板の流出
- ④ 地盤材料の流出
- ⑤ 支持地盤の消失により橋脚が沈下・傾斜



被災前の状況



被災後の状況

- ・傾斜した橋脚については、基礎部の機能が大きく損なわれており、使用に耐えないと判断
- ・その他の橋脚並びに橋桁についても、一部の損傷や部分的な変状が認められる